

## 書籍『図説 %Z法と対称座標法の入門』初版 第1刷 の正誤表 1 / 3

題記の書籍をお買い上げ頂き、誠にありがとうございます。その書籍の中で、下表に示す箇所に誤記がありましたので、お詫びして訂正します。なお、下表の「訂正箇所」の欄に赤色で示した事項が今回追加した訂正分であり、その他は前回までの訂正分です。

著者 ; 柴 崎 誠

訂正箇所	誤っている表記	正しい表記
P7の「手順4」から 下方へ7行目	・・・算出するためには、1000_____×3 [kV・A] に置き換えます。・・・	・・・算出するためには、1000 <u>[V・A/kV・A]</u> ×3 [kV・A] に置き換えます。・・・
P7の下から3行目	・・・[kV]の単位で表した1000_____×66 [kV]の 数値に置き換えます。・・・	・・・[kV]の単位で表した1000 <u>[V/kV]</u> ×66 [kV]の 数値に置き換えます。
目次のiv 電気のおもしろ小話	時間の進む方向が、位相の遅れ？ 47 無効電力の方向は、美空ひばりの定理で考える 67	時間の進む方向が、位相の遅れ？ 47 <u>循環電流 <math>I_c</math> を無効横流という理由</u> 62 無効電力の方向は、美空ひばりの定理で考える 67
P12の表3・1の中の 水車発電機の下側欄	短絡発生から <u>3～6 サイクル間程度</u> 後	短絡発生から <u>数秒</u> 後
P41の例題4の設問文 上から2行目	量値が <u>2000</u> [MV・A]で、・・・	量値が <u>1000</u> [MV・A]で、・・・
P56の(16)式 の分母	$\%R_1[\%] = \dots = \frac{10.166 \times 10^{-2} \times 200}{10 \times 044^2} =$ 分母の044に小数点が欠落している。	$\%R_1[\%] = \dots = \frac{10.166 \times 10^{-2} \times 200}{10 \times 0.44^2} =$ 分母の0.44に小数点を書き加える。
P59 例題1の3行目	変圧器Aの%漏れ $X_T$ 値は、・・・	変圧器Aの%漏れ $Z_T$ 値は、・・・
P82の上から8行目	の中の“ $Q$ の値に負値を代入”	の中の“(− $Q$ ) カッコ内の値に負値を代入”
P106の下から4行目	・・・発電設備が全出力の <u>450</u> [kW]のとき、・・・	・・・発電設備が全出力の <u>900</u> [kW]のとき、・・・

次頁に続く

訂正箇所	誤っている表記	正しい表記
P142の本文の下から6行目	・・・制動巻線線を持たない・・・	・・・制動巻線を持たない・・・
P144の本文の上から5行目	・・・この講義 <u>05</u> では、・・・	・・・この講義 <u>07</u> では、・・・
P148の(7・28)式 から下へ2行目	・・・上記(7・28)式の $\dot{E}_{12}$ はゼロの・・・	・・・上記(7・28)式の $\dot{E}_{21}$ はゼロの・・・
P149本文の8行目	相電圧 $\dot{E}_S$ に置き代えます。・・・	相電圧 $\dot{E}_{SA}$ に置き代えます。・・・
P152の6行目	・・・電源電圧値の $E_{SA}$ , $E_{SA}$ , $E_{SA}$ を・・・	・・・電源電圧値の $E_{SA}$ , $E_{SB}$ , $E_{SC}$ を・・・
P154の7行目	先の講義 <u>03</u> で・・・	先の講義 <u>02</u> の第2項で・・・
P155の図10・2の名	図10・2 NRを分散接地する場合の $I_0$ の分布図	図10・2 NRを分散接地する場合の各 $3I_0$ の方向
P161の(11・17)式	$\dot{V}_1 = \dot{E}_{SA} - \dot{Z}_1 \cdot \dot{I}_1 = \left( 1 - \frac{-\dot{Z}_1}{\dot{Z}_0 + \dot{Z}_1 + \dot{Z}_2} \right) \dot{E}_{SA}$	$\dot{V}_1 = \dot{E}_{SA} - \dot{Z}_1 \cdot \dot{I}_1 = \left( 1 - \frac{\dot{Z}_1}{\dot{Z}_0 + \dot{Z}_1 + \dot{Z}_2} \right) \dot{E}_{SA}$
P172の図15・1の中 の変圧器の%Z値	%Z <sub>T</sub> = 4.3 %	%Z <sub>T</sub> = 4.08 % (説明) P176の5行目に記した4.08[%]と合わせる。
P179の(15・30)式	$\cong 1.0784 [\text{pu}] \angle 0 [^\circ]$	$= 1.0784 [\text{pu}] \angle -3.55 [^\circ]$ ( $E_{SA}$ とほぼ同位相)
<b>P166の最下行</b>	<u>前ページの図12・1</u> に表した・・・	<u>上の図12・2</u> に表した・・・
<b>P167の3行目</b>	・・・この <u>図12・1</u> の等価回路図を	・・・この <u>図12・2</u> の等価回路図を
<b>P167の4行目</b>	・・・この <u>図12・1</u> は少々不便です。	・・・この <u>図12・2</u> は少々不便です。
<b>P167の下から4行目</b>	・・・中性点高抵抗接地系では、 <u>図12・2</u> の	・・・中性点高抵抗接地系では、 <u>図12・3</u> の

次頁に続く

訂正箇所	誤っている表記	正しい表記
P192 の例題 6 の「解法と解説」の中の(1)式から 2 行上から	(説明；次の二重線を施した 3 か所の「3」が余分であるため、3 か所とも「3」を削除して修正する。)  ・ ・ ・ 題意の未補償分の 11 869[kV・A/相]の値から $\frac{3}{100}\%Z_c[\%]$ の値、及び、零相分 $\%Z_0[\%]$ の値を、 $3\%R_N[\%]$ と $\frac{3}{100}\%Z_c[\%]$ の並列合成値で求めます。  $\frac{3}{100}\%Z_c[\%] = -j \frac{10\,000[\text{kV}\cdot\text{A}]}{3[\text{相}] \times 11\,869[\text{kV}\cdot\text{A}/\text{相}]} \times 100[\%] = -j\,28.08[\%] \quad (1)$	
P234 の図 2 の中	図 2 の $E_A$ と $E_{SA}$ が逆に記載してある。	図 2 の $E_A$ と $E_{SA}$ を入れ替えて訂正する。
P253 の(26-1)式	$+j5 \times (X_{G2} + X_T) \div \frac{1}{-j5 \times 2\omega C_1} \quad (26-1)$	$ 5 \times (X_{G2} + X_T)  \div \left  \frac{1}{5 \times 2\omega C_1} \right  \quad (26-1)$
P264 の 1 行目	・ ・ ・ 零相分電流 $\dot{I}_0$ 、及び $3\dot{I}_0$ [A/相]が ・ ・ ・	・ ・ ・ 零相分電流 $\dot{I}_0$ [A/相]、及び $3\dot{I}_0$ [A]が ・ ・ ・
P269 の図 29-4 の左下	(誤記の説明) C 相電圧の記号が $E_{ac}$ になっている。	(訂正の説明) C 相電圧の記号を $E_{sc}$ に訂正する。
P270 の 6.項の(1)項	(1) 微地絡____を生じた ・ ・ ・	(1) 50% 地絡故障を生じた ・ ・ ・
P282 の図 30・10 中のアーク表示	(誤記内容の説明) 図 30・10 の中の上相の A 相、中相の B 相、下相の C 相の 3 相分の全ての碍子表面にて閃絡状態を表すアークを描いてある。	(修正方法の説明) 図 30・10 の中の中相と下相の碍子表面のアークを消去して、上相の碍子表面のアークのみを残し、A 相にて 1 線地絡故障を生じている状態に修正する。
P286 の図 30・14 の中	点線を基準に実線が「28.1° 遅れ」と記してある。	「32.0° 遅れ」に訂正する。
以下余白		

以上